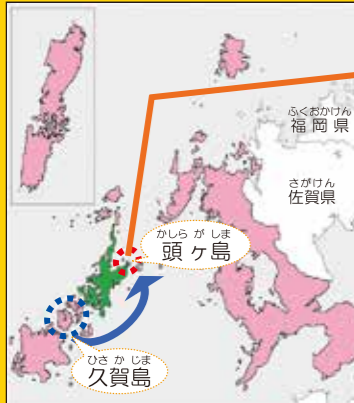


かしら が し ま て ん し ゅ ど う
頭ヶ島天主堂 じゅうようぶんかざい
重要文化財



頭ヶ島天主堂は、1919年（大正8年）に、新上五島町の頭ヶ島に建てられた全国で数少ない、石造りの教会です。
 島の周辺で採れる「砂岩」を使用することで材料費を工夫し、イカ釣り漁などで資金を蓄えながら、島の人々が10年の歳月をかけて造りあげました。小さいけれど、しっかりとした造りで、温かみのある教会です。

ながさきけん ちず
長崎県の地図



かしら が し ま ちず
頭ヶ島の地図とその歴史



頭ヶ島は、もともと無人島でしたが、前田儀太夫さん（五島の久賀島出身）が島の開発を始め、次第に人が移り住み、暮らすようになりました。今は、橋がかかっています。



前田儀太夫さんのお墓



頭ヶ島の近くには、天主堂にも使われた砂岩（当時、五島石と呼ばれていました）が採れる石切り場や、砂岩を使った家の石塀、通りなどが今も残り、国の「重要文化的景観」に選定されています。

切り出された大きな石材は、1つを4~5人で天主堂に運び、手作業で積み上げました。その数...
600個以上!

※ 砂岩...長い年月をかけて、砂が積み重なって固まってできた石（または岩）のこと。

せ かい い さん
世界遺産ニュース No.18

2015年 3月



会いにきてね♪
 これからの
 世界遺産に!

~世界遺産登録を目指す、県内の構成資産の紹介 第7回「頭ヶ島天主堂」~

発行：長崎県教育委員会



天主堂の中は、明るいパステルカラーの天井が広がります。内部にはたくさんの花の模様が散りばめられており、その姿から「花の御堂」という愛称で呼ばれます。

※ 御堂...ここでは、教会堂のことをあらわしています。

けんちくしゃ てつかわ よ すけ
建築者は、鉄川与助さんです!



鉄川与助さん (1879-1976)

頭ヶ島天主堂のある頭ヶ島は、新上五島町の友住郷にあります。鉄川さんの出身地は、頭ヶ島から少し離れていますが、同じ新上五島町内の丸尾郷です。

30代の頃に手がけた、頭ヶ島天主堂は独特のデザインとアイデアを取り入れて造った、代表的な教会の1つです。

ちゅうちく
注目!



石造りの上に
 ある、正面の八角形の
 木製のドーム型の屋根
 が特徴的です!

しゅざい
取材をさせていただきました!!

① こんにちは。ようこそ頭ヶ島天主堂へ!!

本日立案してくださる松井さんです。

② 松井さんは、天主堂の窓を開けて風を通したり、お掃除や花壇のお世話をされています。また、訪れた人のために、大切にしているおもてなしの心とは...

③ 季節のお花（生花）を飾ることで! 地域の方々が、それぞれのお庭で育てたお花もあるんですよ!

④ 「天主堂は、自分たちの家のように大事に守ってきた島の宝物です。訪れてくださる皆さんにも、今後大切にしてほしいです。」と、松井さんはおっしゃいます。

⑤ そして頭ヶ島天主堂には...
ミステリー
 が、あるのです...

⑥ 例えば... 壁に刻まれた漢数字の石の長さを示しているともいわれています。

⑦ 石壁のライン 窓が造られたという説もあります。不思議ですね。

⑧ みなさんぜひ実際に頭ヶ島天主堂を訪れてみてください。

ありがとうございました♪

☆お知らせ☆

頭ヶ島天主堂をはじめ、新上五島町の29箇所教会では音声の解説を聞くことができるサービスを順次整備中です!!(4カ国語に対応。) 右の写真の看板が目印です♪

☆「世界遺産ニュース」について☆

バックナンバーは、長崎県教育委員会の学芸文化課のホームページをご覧ください!!

案内は美龍さん!